

平成 15 年 1 月 11 日

エイズ予防PRと募金活動…有森裕子さんと池袋の街を歩く —「有森裕子親善大使とトーク&一緒に歩こうサタディ」開催—

本日 11 日（土）、国連人口基金（UNFPA）の親善大使を務めるマラソンランナー有森裕子さんを招き、エイズ予防教育啓発のためのウォーキング・パレードと同基金が主催する「青少年のエイズ予防プロジェクト」を支援するための募金活動が池袋の街で展開された。主催：豊島区、国連人口基金、財団法人ジョイセフ（JOICFP）

国連人口基金は、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）や女性の地位向上を活動の主要課題として、母親や子どもたちの命を守る諸活動を世界各地で展開している国際機関。バルセロナオリンピック・女子マラソン銀メダリストの有森裕子さんは、昨年 1 月に同基金の親善大使に任命され、2 月にエイズ問題が深刻なカンボジアを訪問、現地の取組みを視察した。帰国後は国内外で視察報告を行なう一方、カンボジアのエイズ予防教育支援のための活動に精力的に取り組んでいる。昨年 12 月には、例年参加しているカンボジア国際ハーフマラソンの機に、カンボジアの子ども達のためのスポレクを開催、合わせてエイズ予防啓発イベントも実施している。

一方、豊島区は、同基金やジョイセフ等の国際機関と協力し、他の自治体に先駆け再生自転車やリサイクルノートの海外譲渡を実施、途上国への支援活動を進めてきた。海外に贈られた自転車は現地の看護婦や助産婦の地域保健活動の足として、またノートは子どもたちの識字教育や保健医療現場のカルテ代わりとして活用されている。また、池袋保健所（東池袋 1-20-9）1 階に開設している「AIDS 知ろう館」は、自治体保健所では唯一のエイズ専門館で、エイズ普及啓発の全国的な拠点として多くの見学者が訪れる。

こうした関わりから、本年区制施行 70 周年を迎えた記念事業のひとつとして、区と同基金並びにジョイセフの共催で有森さんを招き、池袋の街からエイズ啓発の声を発信しようと、本日の「有森裕子親善大使とトーク&一緒に歩こうサタディ」が実現する運びとなった。

キャンペーンは、午後 1 時 15 分から池袋西口公園（西池袋 1-28）でスタート。セレモニーの後、有森さんの「レッツゴー！」の掛け声を合図に、高野之夫豊島区長、小倉秀雄豊島区議会議長、関係団体のスタッフやボランティア等総勢 100 名が列を作り、西口から東口駅前、そして中池袋公園（東池袋 1-16）までの約 800m のコースを歩いた。有森さんはパレードの先頭に立ち、「自分のこと みんなのこと エイズのこと考えよう！」と記されたプラカードを掲げ、道行く人々にエイズ予防教育支援をアピールした。また、池袋東口駅前では募金活動も展開。「皆さんのひとつの気持ちがカンボジアの多くの子どもたちを救います。カンボジアの子どもたちのためのエイズ予防教育にご協力ください」と訴えた。土曜日とあって多くの人が行き交う駅前では、有森さんの声に足を止め、親子連れや中には中学生たちも募金に協力した。有森さんは、そのひとりひとりに「ありがとうございます」と感謝の握手を交わしていた。

この後、午後 3 時から会場を豊島区民センター（東池袋 1-20-10）に移し、有森さんによるトークショーも行なわれた。また、今回の事業にあわせ、区職員もエイズ予防活動支援のための募金に参加、昨日 10 日現在で約 1,200 名の職員から 157,000 円の募金が集められた。

◆有森さんのコメント

カンボジア視察では、売春宿やエイズで死の床にいる人たちにも会いました。その現実は否定できるものではなく、ショックを受ける以前に、自分に何ができるのか、できることをしようという気持ちが強く湧いてきました。知られているという自分の立場を活かして、ひとりでも多くの人に関心を持ってもらい、そこからひとりひとりが自分にできることを考えていけるよう働きかけていきたい。また、より多くの若者が興味を持てるよう、スポーツや音楽、芸術などとジョイントした働きかけをもっともっとやっていかなければと思います。

詳細：文化芸術施策調整係